

エコアクション21

環境活動レポート

対象期間 2019年10月1日～2020年9月30日



発行 2020年12月28日

株式会社 小谷商事

目次

1. 組織の概要	3
1)組織概要に関する情報	3
2)許可内容・品目及び許可番号一覧	4
3)施設等の概要	5
4)廃棄物の収集運搬量・処分量(2019年度)	5
5)処理工程図	6
6)保有施設	7
7)資格者	7
2. 対象範囲	8
3. 推進組織	9
4. 環境方針	10
5. 環境目標	11
6. 環境活動計画	12
7. 環境目標の実績	13
8. 環境活動取組結果の評価と次年度の取組内容	14
9. 環境関連法規制等の違反、訴訟の有無	16
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	16
11. 優良産業廃棄物処理業者認定制度	16
12. 地域貢献活動について	17

1.組織の概要

1)組織概要に関する情報

事業所名 株式会社 小谷商事

代表者 小谷謙二

所在地

名称	施設	住所
本社・第1工場	積替え保管施設	〒454-0846 愛知県名古屋市中川区上流町2丁目16番地 TEL052-353-3913 FAX052-353-3440
第2工場	中間処理施設・切断	〒454-0846 愛知県名古屋市中川区上流町2丁目18番地1
港工場 (2020.7新設)	中間処理施設・破碎	〒455-0016 愛知県名古屋市港区河口町2番17号
	積替え保管施設	
	銅線ナゲット加工施設	
第3工場 (2020.6港工場に集約)	銅線ナゲット加工施設	〒454-0846 愛知県名古屋市中川区若山町4丁目4番地
	中間処理施設・破碎	〒454-0846 愛知県名古屋市中川区若山町4丁目4番地
第4工場 (2020.7港工場に集約)	積替え保管施設	〒454-0846 愛知県名古屋市中川区上流町2丁目24番地
金属スクラップヤード	有価物保管場所	〒454-0846 愛知県名古屋市中川区上流町2丁目17番地

環境管理責任者 専務 小谷鉄平

連絡先 052-353-3913

E-mail tepei.kotani@hotmail.co.jp

資本金 3,000,000円

創業 昭和29年4月

設立 平成3年4月23日

売上高 230百万円

事業内容
産業廃棄物収集運搬業
特別管理産業廃棄物収集運搬業
産業廃棄物中間処理業
金属スクラップ卸売業

従業員数 19名(2020年12月現在)

2)許可内容・品目及び許可番号一覧

	処分		収集運搬						(名古屋市) 積替保管
	切断	破碎	名古屋市	愛知県	岐阜県	三重県	静岡県	滋賀県	
廃プラスチック類	●		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
紙くず	○		○	○	○	○	○	○	
木くず	○		○	○	○	○	○	○	
繊維くず	○		○	○	○	○	○	○	
金属くず	○	△	○	○	○	○	○	○	○
ガラスくず・陶磁器くず 及びコンクリートくず	●	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
がれき類	●		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
廃油			○	○	○	○	○	○	
特別管理産業廃棄物	引火性廃油 廃酸 廃アルカリ			○					

●石綿含有産業廃棄物を除く

◎石綿含有産業廃棄物を含む

△廃蛍光管に限る

水銀使用製品産業廃棄物を除く

水銀使用製品産業廃棄物を含む

許可の種類	許可の範囲	許可番号	更新年月日	有効期限
産業廃棄物収集運搬業	名古屋市(優良)	06410056710	平成28年12月1日	令和5年11月30日
	愛知県(優良)	02300056710	平成30年12月11日	令和7年12月10日
	岐阜県(優良)	02100056710	平成29年2月18日	令和6年2月17日
	三重県(優良)	02400056710	平成28年10月24日	令和5年10月23日
	静岡県	02201056710	平成28年5月22日	令和3年5月21日
	滋賀県(優良)	02501056710	令和1年10月19日	令和8年10月18日
特別管理産業廃棄物収集運搬業	愛知県(優良)	02350056710	平成29年2月3日	令和6年1月30日
産業廃棄物処分業	名古屋市(優良)	06420056710	平成29年11月1日	令和5年11月30日

3)施設等の概要

本社・第1工場(積替え保管施設)	
保管場所	名古屋市 中川区 上流町2丁目16番地
面積	30.1㎡
種類	廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を含む) 金属くず ガラスくず及び陶磁器くず及びコンクリートくず(石綿含有産業廃棄物を含む) がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む)
保管上限	28.2㎡

第2工場(中間処理[切断]施設)	
設置場所	名古屋市 中川区 上流町2丁目18番地1
設置年月日	2008年2月23日
面積	323.38㎡
処理方法	大型スクラップシャーによる切断
処理品目	廃プラスチック類(石綿含有産業廃棄物を除く) 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスくず及び陶磁器くず及びコンクリートくず(石綿含有産業廃棄物を除く) がれき類(石綿含有産業廃棄物を除く) 以上7種類
処理能力	43.8t/1日(8時間)

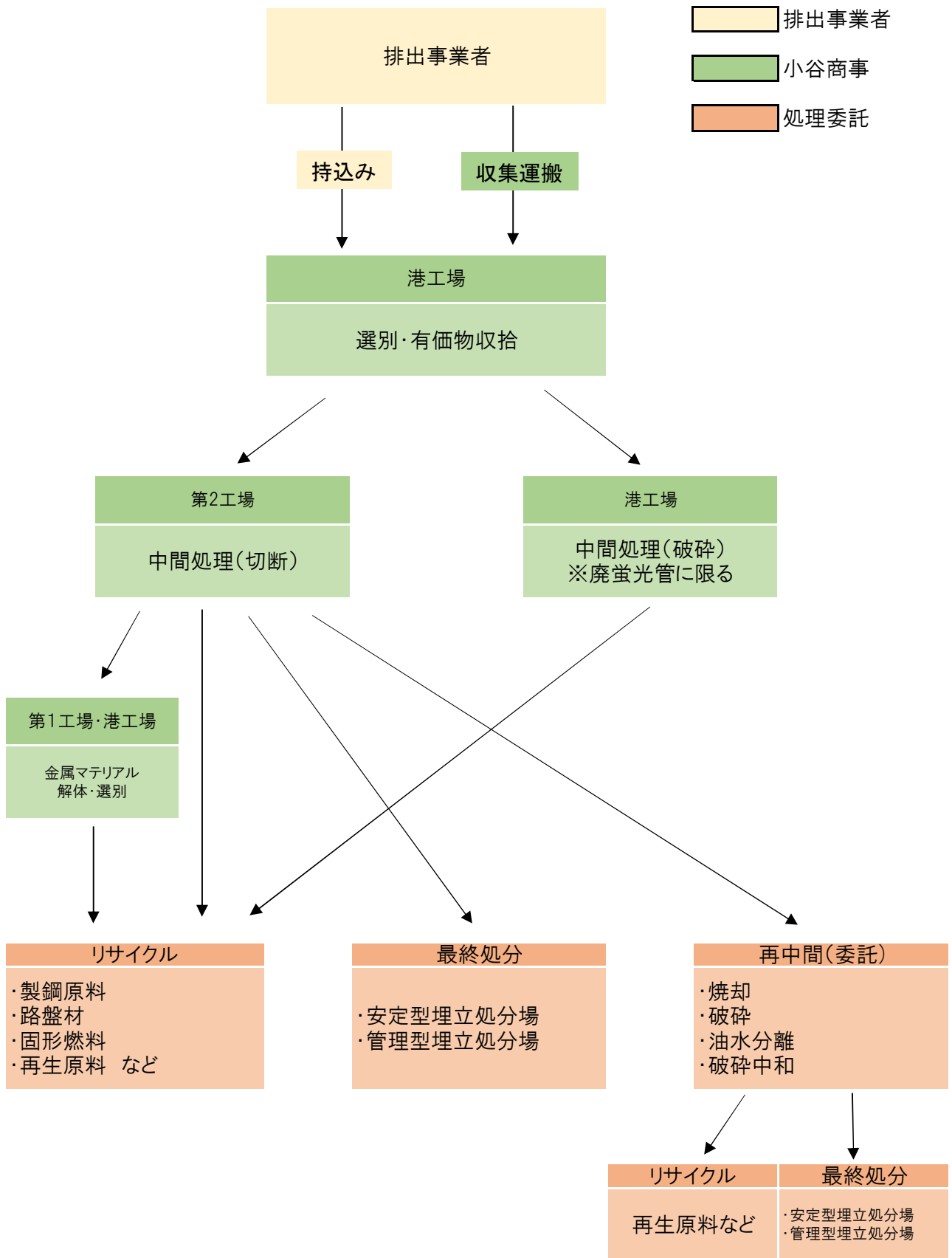
港工場(中間処理[破碎]施設、積替え保管施設、銅線ナゲット加工施設)	
設置場所	名古屋市 港区 河口町2番17号
設置年月日	2020年7月6日
面積	2720.29㎡
処理方法	破碎
処理品目	金属くず(廃蛍光管に限る)、ガラスくず及び陶磁器くず(廃蛍光管に限る) 以上2種類(水銀使用製品産業廃棄物を含む)
処理能力	1.9t/日(8時間)
保管場所	名古屋市 港区 河口町2番17号
面積	76.2㎡
種類	廃プラスチック類 金属くず ガラスくず及び陶磁器くず がれき類
保管上限	51.5㎡

金属スクラップヤード	
所在地	名古屋市 中川区 上流町2丁目17番地
面積	224.69㎡

4)廃棄物の収集運搬量・処分量(2019年度)

2019年度 収集運搬量・処分量	
産業廃棄物の収集運搬量	3664.8t/年
特別管理産業廃棄物の収集運搬量	1.3t/年
産業廃棄物の処分(中間処理)量	3707.1t/年

5)処理工程図



6)保有施設

①運搬車両

種類及び名称	最大積載量	台数
キャブオーバ(ユニック車)	7t	3台
キャブオーバ(ヒアブ車)	4t	1台
脱着式装置付コンテナ専用車	4t	2台
キャブオーバ(ユニック車)	3t	1台
キャブオーバ(パワーゲート車)	2t	2台
合計		9台

②処理施設

施設の種類および名称	能力	許可取得および導入日
大型スクラップシャー	105型800t	平成20年6月1日
銅線剥離機	18kw	平成24年3月5日
廃蛍光管クラッシャ	0.7kw	平成29年11月1日

③機器

種類及び名称	能力	台数
三菱フォークリフト	2.5t	1台
三菱フォークリフト	0.9t	1台
トヨタフォークリフト	3.0t	1台
日立バックホー(1100φマグネット付)	0.7m ³	1台
日立バックホー	0.25m ³	1台
コベルコバックホー	0.25m ³	1台
トラックスケール	40t	1台
トラックスケール	50t	2台
1100φマグネット天井クレーン	2.8t	1台
1300φマグネット天井クレーン	4.8t	1台

7)資格者

資格名	人数
普通自動車	14名
大型自動車	10名
大型特殊	1名
危険物乙	1名
危険物丙	1名
ガス溶接	2名
フォークリフト	12名
小型移動式クレーン	10名
5t未満天井クレーン	6名
玉掛け	10名
車両系建設機械(整地)	9名
けん引	1名
職長安全責任者	2名
主任計量者	2名



2. 対象範囲

対象範囲は全組織・全活動とする

①サイト



②事業内容

活動の範囲

産業廃棄物収集運搬業



産業廃棄物処分量



金属スクラップ卸売業



特別管理産業廃棄物収集運搬業



③要員

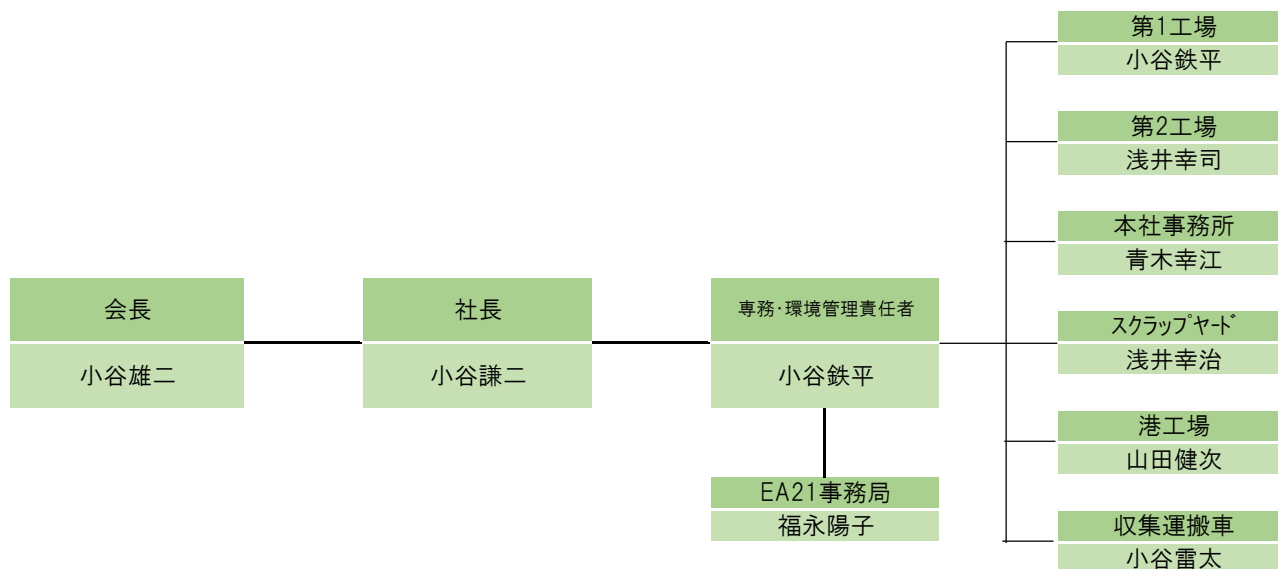
正社員19名

④環境活動レポートの対象範囲

活動期間は2019年10月から2020年9月とし2020年12月に環境活動レポートを発行。
次年度は2020年10月から2021年9月とし、12月ごろにレポートを作成・公表します。

3. 推進組織

1) 組織図



2) 役割責任

役職	役割・責任・権限
会長	・環境経営システムの総責任者
社長	・環境方針を定める
	・環境管理責任者を定める
	・資源(人員・設備・費用)の準備
	・全体の取組状況の評価と見直し
専務・環境管理責任者	・教育の実施、環境目的及び環境管理システムの承認
	・実施状況の確認
	・環境活動レポートの確認
	・環境活動の取組結果を確認
EA21事務局	・文書の作成管理
	・システム運営上の事務管理
	・環境管理活動計画実施の実績集計
	・環境活動レポートの作成
各リーダー	・環境目標達成するための活動の推進・提案
全従業員	・決められたことを守り、自主的・積極的な環境活動への参加

4.環境方針

環 境 方 針

[基本理念]

株式会社 小谷商事は、地球環境の保全が人類共通の重要課題の一つであることを認識し、持続可能な社会を目指して、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。

[基本方針]

株式会社 小谷商事は、金属リサイクル業・産業廃棄物の収集運搬及び中間処理の管理に関わる全ての活動、製品及びサービスの環境負荷を低減するために、次の方針に基づき環境マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。

1. 当社の活動に関わる環境影響を常に意識し、環境汚染の予防を推進するとともに、環境マネジメントの継続的改善を図ります。
2. 当社の活動に関わる環境関連法規及びその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動に関わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物の削減およびリサイクル率の向上
 - (3) 水使用量の削減
 - (4) グリーン製品購入の推進
4. 一人ひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるように周知徹底し、この環境方針を全従業員の理解を深めるとともに、活動意欲の向上を図ります。

制定日 2015年8月1日

改訂 2016年4月1日

株式会社 小谷商事
代表取締役 小谷謙二

5.環境目標

環境目標・取組の基本方針

事業活動が環境にどのような影響をあたえているかを把握・評価して、環境との影響が大きいと考えられる二酸化炭素排出量削減（電気使用量の削減、燃料使用量の削減）、水使用量の削減、廃棄物排出量の削減、グリーン購入、廃棄物リサイクル率向上など重点的に取り組めます。

(1)環境目標

2017年度を基準年として下記の削減目標を設定いたしました。

Ⅲ環境目標の設定

取組項目	基準数値	2018年度目標	2019年度目標	2020年度目標
二酸化炭素排出量※1	削減率	1%	2%	3%
	kg-CO ₂ /t	37.45	37.08	36.70
電力使用量の削減	削減率	1%	2%	3%
	kWh/t	14.24	14.10	13.96
燃料使用量の削減 (ガソリン)	削減率	1%	2%	3%
	ℓ/t	1.53	1.51	1.50
燃料使用量の削減 (軽油)	削減率	1%	2%	3%
	ℓ/t	10.02	9.92	9.82
水使用量の削減	削減率	1%	2%	3%
	m ³ /t	0.048	0.0475	0.0470
廃棄物排出量の削減	削減率	1%	2%	3%
	kg/t	0.297	0.294	0.291
グリーン購入の向上(事務所)	増加率	1%	2%	3%
	円/t	52.8	53.3	53.9
廃棄物リサイクル率向上※2	向上率	1%	2%	3%
	%	88.9	89.9%	90.9%

※1 二酸化炭素排出係数0.485kg・CO₂/kWh(2016年度)を使用

※1 2017年度二酸化炭素排出量100,860kg-CO₂

※2 2017年度中間処理後の処分量1650.4t 内再資源化1394.4t

※ 基準数値の設定にあたり用いた分母の「t」は中間処理量。

※ 化学物質の使用なし

※ 次年度は本年度(2019年度)を基準年度とするが、2020年度からが通年で新体制となっているので、2021年度以降は2020年度を基準年度とする。

2017年度実績	
二酸化炭素排出量	100,860kg-CO ₂
電力使用量	38,353kWh
燃料使用量(ガソリン)	4,126ℓ
燃料使用量(軽油)	26,985ℓ
水使用量	128m ³
廃棄物排出量	800kg
グリーン購入量	142,208円
廃棄物リサイクル率向上	88.90%

6. 環境活動計画

二酸化炭素排出量の削減

2017年度を基準年度として、二酸化炭素排出量を産業廃棄物中間処理量あたり2%削減する

電気使用量の削減

2017年度を基準年度として、電気使用量を産業廃棄物中間処理量あたり2%削減する

- 1) 照明の管理
- 2) 冷暖房設定温度の管理
- 3) 空調フィルターの清掃
- 4) 中間処理加工における効率化(種類ごとに分別し、まとめて加工をする)
- 5) 電線ナゲット加工における稼働時間の短縮(前処理工程と破碎工程を分けて機械の稼働時間を少なくする)

燃料使用量(ガソリン)の削減

2017年度を基準年度として、ガソリン使用量を産業廃棄物中間処理量あたり2%削減する

- 1) 毎月の使用量の管理
- 2) エコドライブの実施
- 3) 燃費の管理
- 4) 車両の日常点検を実施し、不良箇所がある場合は速やかに修理する

燃料使用量(軽油)の削減

2017年度を基準年度として、軽油使用量を産業廃棄物中間処理量あたり2%削減する

- 1) 毎月の使用量の管理
- 2) エコドライブの実施
- 3) 燃費の管理
- 4) 車両の日常点検を実施し、不良箇所がある場合は速やかに修理する

水使用量の削減

2017年度を基準年度として、水使用量を産業廃棄物中間処理量あたり2%削減する

- 1) 毎月の水使用量の把握
- 2) 節水に努める
- 3) 漏水点検をする

廃棄物排出量の削減

2017年度を基準年度として、廃棄物を産業廃棄物中間処理量あたり2%削減する

- 1) 毎月の廃棄物量の把握
- 2) リサイクル・分別の徹底
- 3) コピー用紙の裏紙利用

グリーン購入の向上

2017年度を基準年度として、グリーン購入を2%向上させる

- 1) 購入品の管理調査
- 2) グリーン製品の選定
- 3) グリーン購入の実施
- 4) 毎月のグリーン購入の把握

廃棄物リサイクル率向上

2017年度を基準年度として、廃棄物リサイクル率を2%向上させる

- 1) 固形燃料(RPF)向けの荷物を増やす
- 2) 可能な限り手選別を心掛ける
- 3) マテリアルリサイクル可能な物を抜き取る

7.環境目標の実績

対象期間は2019年10月～2020年9月です。

取組項目	目標	実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量の削減	2%削減 36.70kg-CO ₂ /t	37.09	98.9%	×
電気使用量の削減	2%削減 13.96kWh/t	13.64	102.3%	○
燃料使用量の削減 (ガソリン)	2%削減 1.50L/t	0.95	158.9%	○
燃料使用量の削減 (軽油)	2%削減 9.82L/t	10.77	71.5%	×
水使用量の削減	2%削減 0.0470m ³ /t	0.1080	44.0%	×
廃棄物排出量の削減	2%削減 0.291kg/t	0.221	133.0%	○
グリーン購入の向上	2%増加 53.9	20.2	37.9%	×
廃棄物リサイクル率向上	2%向上 90.9%	90.0%	99.0%	×

※実績評価は100%以上○、100%未満は×

※環境への負荷チェックリストで、二酸化炭素への換算は、中部電力の数値(2016年度)0.485kg・CO₂/kWhを使用しています。

※2019年度二酸化炭素排出量136,121.30kg-CO₂

※2019年度中間処理量3707.1t 内リサイクル化2340.5t

※基準数値の設定にあたり用いた分母のtは中間処理量。

※グリーン購入の実績は購入金額で評価しています

※達成率は目標÷実績で計算。

※本年度は工場の新設や廃止があったが、比較の対象が無いので、2017年度を基準年度として継続した。

2019年度実績	
二酸化炭素排出量	137,489.30kg-CO ₂
電力使用量	50,569kWh
燃料使用量(ガソリン)	3,524ℓ
燃料使用量(軽油)	39,926ℓ
水使用量	200m ³
廃棄物排出量	820kg
グリーン購入量	74,899円
廃棄物リサイクル率	90.0%

8. 環境活動取組結果の評価(2019年度)と次年度の取組内容

目標1 二酸化炭素排出量の削減

本年度は7月に工場の統合など行った影響で昨年との比較は難しいが、昨年と比べるとCO₂の排出量は増加した。新工場では3階建ての事務所にエアコンが6台ある為、電気使用量は以前よりは増加が予想される。人がいない時間はエアコンを切るなど節電の意識を高めたい。

電気使用量の削減	照明の管理
	評価 新工場の照明は改修工事の際にすべてLED照明に交換した。本社事務所のみ蛍光管を使用しているので、今後LED化を進めていきたい。
	冷暖房設定温度の管理
	評価 港工場新設によりエアコンの保有台数は増えた。人がいない時間帯は電源を切るように指導した。
	空調フィルターの清掃
	評価 ホコリが多い環境なので、エアコンを使用する期間は月に1度はフィルター掃除を行い、エアコン運転の効率化を図った。
	中間処理加工における効率化(種類ごとに分けえまとめて加工をする)
評価 本年度は新型コロナウイルスの影響で扱い量が減った時期もあるが、大型案件が入ったので、中間処理量が増えて使用電気量も増加した。	
電線ナゲット加工における稼働時間の短縮(分業制)	
評価 7月から3ヵ月ほど設備の故障で加工が出来なかった。休止期間の電気使用量は減少したが現在は復旧し加工を再開している。電線は昨年よりも入荷が多く、破砕せずに剥離作業のみで出荷したものが多かった。	
燃料使用量(ガソリン)の削減	毎月の使用量の管理
	評価 担当者にチェック表を提出してもらい、事務所で管理した。
	エコドライブの実施
	評価 運転手は毎月1項目エコドライブの目標を選択し、実施した。
	燃費の管理
	評価 毎月のチェック表に走行距離を記載し、燃費を事務所に管理した。
車両の日常点検を実施し、不良箇所がある場合は速やかに修理する	
評価 毎月チェック表を提出してもらい、不具合箇所がある場合、必要に応じて修理などの対応をした。	
燃料使用量(軽油)の削減	毎月の使用量の管理
	評価 毎月各車担当者にチェック表を提出してもらい、事務所で管理した。港工場内に軽油保管タンクを設置し、使用した者は、用紙に使用量を用紙に記入するようにしている。
	エコドライブの実施
	評価 各運転手は毎月1項目エコドライブの目標を選択し、実施した。
	燃費の管理
	評価 毎月のチェック表に走行距離を記載し、燃費を事務所に管理した。
車両の日常点検を実施し、不良箇所がある場合は速やかに修理する	
評価 毎月チェック表を提出してもらい、不具合箇所がある場合、必要に応じて修理などの対応をした。	



目標2 水使用量の削減

水使用量は昨年と比べ、20m³ほど増加した。仕事量の増加や新工場新設により水道設備も増えている。仕事量を加味した数値は減少に転じ、結果的に良い値となった。来期も今年度より増えないように節水対策を強化したい。

毎月の使用量の管理

評価 隔月水道局の検針結果より使用量を管理した。

節水に務める

評価 手洗いなど、水の出し過ぎに注意して、節水に努めた。

漏水点検をする

評価 毎月1回漏水点検を行う。

目標3 廃棄物排出量の削減

事務所の移転などで会社から出る廃棄物は増えた。工場が2拠点になり、一般廃棄物の回収も2か所になり移転前に比べると増加傾向にある。裏紙利用を引き続き強化したい。

毎月の排出量の確認

評価 毎週金曜日に一般廃棄物業者が収集に来るので、その時に数量を確認した。

リサイクル・分別の徹底

評価 主にペットボトルをリサイクルしている。ふたも分別してリサイクルに回している。

コピー用紙の裏紙利用

評価 社内の伝票などはほぼ裏紙を使用している。個人情報記載ものはシュレッダーをかけている。

目標4 グリーン購入の向上

グリーン購入量は昨年よりも減少しているが、経費は削減できているので問題はあまりないと思う。不要なものは買わず、必要なものはグリーン製品の中から選定するようにしたい。

購入品の管理調査

評価 インターネットサイト内の情報をもとにグリーン製品の購入の管理をしている。

グリーン製品の選定

評価 インターネットサイト内でグリーン製品の選定を行っている。

グリーン購入の実施

評価 過去の実績より同じものを選定し、グリーン製品を購入している。

毎月のグリーン購入の把握

評価 インターネットサイト内で毎月のグリーン製品購入履歴を把握している。

目標5 廃棄物のリサイクル率の向上

プラスチックリサイクルの状況は依然難しい状況だが、サーマルリサイクル向けを増やすように努めた。今期はがれき類などのリサイクル可能な品目の入荷が多かったので、リサイクル率の維持につながった。来期も細かな選別によりリサイクル率の向上に努めたい。

固形燃料(RPF)向けの荷物を増やす

評価 手選別でRPF向けの廃棄物を細かく取り出して、可能な限りRPFを増やすように努力した。

可能な限り手選別を心掛ける

評価 重機では選別できないような廃棄物も手作業なら選別できるので、時間がある時は手作業によりより細かな選別を心掛けるように指導した。塩ビ管などもリサイクルが可能なため分別を心掛けた。

マテリアルリサイクル可能な物を抜き取る

評価 ストレッチフィルム・塩ビ管を中心に選別して、マテリアルリサイクル量を増やした。国内にリサイクル施設が増えれば、もっとリサイクル量は増加できると思う。

◎これまでの活動を継続しながら、以下の活動を強化していきたい。

電気使用量の削減

新工場の稼働により、以前と比べ電気設備は増えているので、使用していない部屋は電気を切ることを徹底して取り組んでいきたい。

燃料使用量の削減

重機や車両は年々台数が増えているので、使用量を減らすのは難しいが、常に燃費のことを頭にいれて、業務に当たるように指導していきたい。

水道使用量の削減

新型コロナウイルスの感染予防で手洗いの回数は増えてしまうが、水を出す量を調整して手を洗うように指導して、節水に努めていきたい。

廃棄物排出量の削減

契約書や見積書はデータで送る事が多くなってきたので、ペーパーレスを進めていきたい。

グリーン購入の向上

無駄なものを買わず、必要なものはグリーン製品から選ぶ。環境への意識をもっと高めていきたい。

リサイクル率の向上

来期に新たな設備を検討している。リサイクルにつながる設備を導入する予定なので、積極的にリサイクル事業を進めていきたい。

9.環境関連法規制等の違反、訴訟の有無

(1)適用となる主な環境法規

- ・環境基本法
- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ・大気汚染防止法
- ・悪臭防止法
- ・振動規制法
- ・騒音規制法
- ・自動車NOx・PM法
- ・高圧ガス保安法
- ・フロン排出抑制法
- ・グリーン購入法
- ・家電リサイクル法
- ・消防法
- ・労働安全衛生法
- ・環境保全条例(名古屋市)
- ・産業廃棄物等の適正な処理及び資源化の促進に関する条例(名古屋市)

(2)違反、訴訟の有無

上記環境関連法については、チェックリストにより、確実に法規を遵守していることを確認しました。また過去3年間、関係各機関から特に指摘・指導はなく、訴訟も1件もありませんでした。

2020年12月25日

10.代表者による全体評価と見直しの結果

これまで工場が分散していて効率も悪く手狭だったため、念願の新工場を新設することが出来た。これからは自社引取りに加えて、持込での荷受けも積極的に対応し、業務拡大に努めていきたい。

環境の面では、新工場はすべてLED照明に改修した。本社事務所だけがまだLED化されていないので、今後LED化を検討したい。業務拡大に伴い、車両や重機などの台数が増加しているが、従業員には常に環境への意識を植え付けさせ、業務に当たるように指導していきたい。

11.優良産業廃棄物処理業者認定制度

静岡県の収集運搬業は次回更新時に優良認定を受ける予定である。

12.地域貢献活動について

昨年までジャズライブを開催していたが、今年は開催できなかったため、地域の清掃活動を行った。
本年度は毎月1回会社周辺の一斉清掃活動を行っている。
日頃ご迷惑をかけている地域住民に対し、感謝の気持ちをもって全社員で取り組んでいきたい。
今後も地域に根ざした企業となれるように精進していきたい。

